

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所
事業所名 りんどう保育園

第三者評価の判断基準

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 全体的な計画の作成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	a) <ul style="list-style-type: none"> ■ 1 全体的な計画は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて作成している。 ■ 2 全体的な計画は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて作成している。 ■ 3 全体的な計画は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して作成している。 ■ 4 全体的な計画は、保育に関わる職員が参画して作成している。 ■ 5 全体的な計画は、定期的に評価を行い、次の作成に生かしている。 	○園の保育目標を達成するため、保育指針、園の理念に基づいて全体的計画が立てられています。全体的な計画は、こどもの姿や地域性、保護者の思い等を踏まえて、毎年全職員で話し合わせ作成されています。各年齢ごとの目標や具体的に押さえておく事柄が記載されています。 ○定期的に反省や見直しをして、次年度に活かしています。計画の中に保育理念に基づき目指すこども像(育てほしい10の姿)、教育保育方針、方法など具体的な内容が記載されています。 ○全体の計画から年齢ごとの年間指導計画が作成され、期ごとに評価反省し次期の保育や次年度の計画に反映されていました。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	着眼点	コメント
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 ■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<p>○室内環境について、午前午後の決まった時間に調べて記録されています。更にこどもの様子を観察しながら調節していました。</p> <p>○年一度、環境アドバイザーによる指導を受け、環境や衛生面について研修を受け、得た情報により、保育に反映させています。</p> <p>○寝具は、毎週全家庭が持ち帰り、手入れしていただくことで、衛生管理に努めています。また、3歳以上児については、衛生管理しやすいコットベッドを導入しています。</p> <p>○仕切りなどにより、横になったりくつろいだりできる空間を設定していました。</p> <p>○トイレは、職員が常に衛生面に気をつけており、便の後は消毒し清掃もこまめに行っています。手洗い場は自動で温水が出る仕組みで、こどもが利用しやすく整備されています。</p>
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>○保護者の状況や思いなどを把握し、アセスメントに基づいて、こども主体、こども理解を原点とした保育に取り組んでいます。</p> <p>○発達過程や個人差を考慮した個別計画を立て、個別配慮を大切に保育しています。個々の思いを汲み取り、選択肢を用意して無理なく気持ちを表現できるようにしていました。</p> <p>○職員は、こどもの気持ちに寄り添い、丁寧で穏やかな関りをして、こどもたちが安心して生活し遊ぶことができていることが、園内見学や職員の聞き取り調査から確認できました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	着眼点	コメント
			<p>③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。</p>	<p>a)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 無理せず一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>○年齢別年間指導計画「健康」の項目に、各年齢、各期で大まかな生活習慣の基本的な捉えがあり、共通理解ができています。そのうえで個々の発達を大事にして、環境を整えて支援しています。 ○こどもの気持ちに寄り添い、自己肯定感や達成感が味わえるように働きかけています。 ○絵やイラストなどの視覚支援や刺激を抑える工夫で、自ら見通しを持って動くことができるよう環境を整えていました。 ○保護者と情報共有を図り、こどもを真ん中にして進めています。</p>
			<p>④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	<p>a)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>○こどもたちの遊びから興味関心を捉え、こどもの「やりたい」という主体性を大切に活動に繋げるように、こどもの声に耳を傾け保育を展開しています。廊下に『わくわくボード』を設置し、今、楽しんでいる遊びや楽しかったことの紹介と遊びへの招待などが記載されています。遊びの写真や手書きのコメントなどが記され、こどもたちの遊びの幅が広がり異年齢の関わりへも繋がっています。 ○カニやメダカ、ドジョウなどを飼育して、身近な小動物に関心を持てるよう、職員全体で環境づくりに心がけています。カニに触れ観察することで興味が湧き、劇遊びやカニの折り紙遊びに発展しています。 ○年間を通じて「体操教室」が行われ、専門家の指導を参考に、こどもたちが身体を使って遊ぶ楽しさを感じるように努めています。 ○敬老会やサロンに出かけたり地域の方を招待したり、地域のお年寄りとの交流を図るようになっています。また、地域の七夕やJR訓練センター、消防署などを見学し、見分を広げ社会的ルールや態度も身につくようになっています。 ○こどもの発想を具現化するように寄り添いながら、必要な教材や用具などを用意するなどの環境を整えています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	着眼点	コメント
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 ■ 36 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	○ソフトマットやパーテーションなどの環境整備をして、安心、安全に、ゆったり落ち着いて過ごせる空間が確保されています。同フロアの保育士と声をかけ合って保育をしています。 ○保育士との触れ合い遊びを通し、愛着関係を深めながら情緒の安定を図っていました。 ○一人ひとりの発達、発育状況に応じて、離乳や歩行の完成を目指しています。また、優しく語りかけ、発語や喃語に回答していました。 ○手作りおもちゃを準備し、0歳児の成長期に合わせたおもちゃが用意されていました。 ○アプリを活用して、連絡帳や写真と共に保育園の生活情報（日々の離乳食、ミルク、午睡時間等）が保護者に配信され、保護者との連携は密に取れています。
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分自身とする気持ちを尊重している。 ■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。 ■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 ■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。 	○職員は、こどもたちが主体的に遊べるよう、活動の様子をよく観察しています。更に興味や関心をもてるような素材や材料などを準備し、一人ひとりのこどもの自我の育ちを見守ることで自発的な探索活動に繋げる工夫をしていました。 ○排泄や着替えの際には、一人ひとりの状態に配慮して個々に対応しています。パーテーションを活用して、プライバシーの保護、人権を大切にすることを心がけています。 ○廊下に『わくわくボード』を設置し、日々の保育から楽しかった遊びなどを掲示することで、異年齢のこどもたちが訪ねてきたり3歳以上児の遊びに参加したりすることで、自然な関わりが広がっています。 ○言葉が不十分なこどもの気持ちを理解するよう心がけ、気持ちに寄り添うことで安心して表現できるようにしています。 ○保育園の行事に、地域の敬老会の方々をお招きして、こどもたちとの交流を図っています。 ○送迎時に様子を伝え合い、個別のアセスメントも行うことで、連携を取っています。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着点	コメント
			<p>⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	<p>○基本的には年齢ごとの活動で発達に配慮して保育していますが、遊びや生活に応じて異年齢の良さを大切にしたり保育をしています。そのために必要な人員配置と職員間での十分な連携がされていました。</p> <p>○こどもの興味に応じた遊びのコーナーを設けて、やりたいという思いを実現できるように教材や材料などの環境整備がされています。</p> <p>○グループ活動や行事を通して友だちと協力して、一つのことをやり遂げることを目的に協同的な保育を進めています。</p> <p>○保護者には、日々の様子や小学校との交流について、ドキュメンテーションや連絡帳などで伝えていきます。小学校との連携については、幼保小連絡会などで伝え、必要に応じて園での様子を見に来てもらい共通理解を図っています。</p>
			<p>⑧ 障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 51 建物・設備など、障がいに応じた環境整備に配慮している。 ■ 52 障がいのある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 ■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 ■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■ 57 職員は、障がいのある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 ■ 58 保育所の保護者に、障がいのある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	<p>○園舎内の段差のある場所（玄関、トイレの入口）にはスロープが設置され、身障者用トイレも用意するなど環境整備に配慮されていました。</p> <p>○配慮を必要とする子どもには個別支援計画に基づく配慮がされていますが、さらにもどの子どもも過ごしやすいインクルーシブ保育に取り組んでいます。</p> <p>○専門機関の担当者や連携を取りながら成長の姿や状況に応じた保育を行っています。また、長野市の『子ども総合支援センター事業』の園訪問を利用して、専門の先生から助言を受けています。</p> <p>○保護者と専門機関との連携をこまめに行い、保護者の不安やこどもの困り感に寄り添いながら園での生活が過ごしやすくなるように配慮しています。</p> <p>○職員は、障がい児保育に関する研修へ積極的に参加して、知識や情報を得ています。</p> <p>○専門性を高めるために、当法人の児童発達センター（すきっぷ）にて研修を行っています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	着眼点	コメント
			<p>⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 ■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 ■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 ■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 ■ 63 子どもの在園時間や生活リズムに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 ■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 ■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。 	<p>○こどもが安心して心地よく過ごせるように、朝夕の長時間保育時と通常保育と隔たりが生じないように担当保育士との連携を図り、伝達体制を整えて取り組んでいます。</p> <p>○子どもの状況に合わせた環境作り心がけて、くつろいだ雰囲気でも過ごせるように工夫されています。個々の様子に応じて遊べるようにコーナー遊びや机上遊びなど準備されています。(ござやクッションマットなどのスペースを用意)</p> <p>○一日の疲れから不安定になるこどもや特に小さいこどもには、職員がスキンシップを心がけ情緒の安定を図っています。</p> <p>○夕方は水分補給に留意し、飲み物が用意されています。家庭での夕食に差し支えるため、あえて補食はないものの午後のおやつの際に個別に配慮されました。</p> <p>○日常的に、異年齢での活動や遊びなどが行われているため、長時間の保育でも自然に関わり穏やかに過ごすことができています。</p>
			<p>⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 ■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 ■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。 	<p>○『全体的な計画』の中に「小学校との連携(接続)」という記載があり、小学校との連携の在り方や接続についての計画が示されています。そこから「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目」に添って、小学校や保護者との共有を図り、保育を進めています。</p> <p>○こどもや保護者が安心して就学できるように、小学校との連携交流が図られています。「幼保小架け橋プログラム」により、幼保小連絡会(小学校の先生による保育園訪問、保育士の小学校訪問)や保護者との1日入学、校舎内見学、事前の保護者相談を行うなど、計画的に実施されています。</p> <p>○就学に向けて、児童保育要録来入児カードの作成をして小学校との共通理解が図られています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	着眼点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 ■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<p>○健康管理に関するマニュアルやこどもの保健に関する保健年間計画が整備されています。また、入園時には、アレルギー、既往症の有無などを個別に把握し、入園後の生活について適切な対応を行っています。</p> <p>○こどもの体調不良、突然のケガについては、保護者と連携して早退などの対応を行っています。保育園のケガの状況によっては、保護者の判断の下、受診し適切に対応しています。</p> <p>○事故や感染症の発生、予防や対策についての情報等は、アプリにて保護者に連絡周知しています。また、事務室の感染報告掲示板にて職員への周知を図っています。</p> <p>○年間の保健衛生指導にて、こどもたちに周知する活動を行い、その様子をドキュメンテーションにて保護者に伝えています。</p> <p>○SIDSについては、国からの注意喚起を各保育室に掲示し、保護者にも伝えていきます。午睡時の呼吸確認や体位について、確認し記録しています。</p> <p>〈ブレスチェック〉 0歳児：1/5分 1・2歳児：1/10分 3歳以上児：1/20分</p> <p>○入園案内や保育参観などの機会に健康管理について知らせています。また、掲示板や保健だよりの配信により、保護者への情報提供をしています。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ、保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>○各種健診が計画に基づき実施されています。（内科健診、歯科健診を年2回実施）結果を保護者に伝え、その後の治療状況も確認しています。</p> <p>○結果をもとに歯科指導計画に反映しています。歯磨き指導は、こどもにわかりやすく指導をしています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	眼 点	コメント
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 ■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	<p>○アレルギー対応が必要なこどもについては、「アレルギー対応ガイドライン」に従い入園時に医師からの指示書を提出、保護者、担任保育士、管理栄養士とも面談を行い、除去食の提供等についての確認をしています。</p> <p>○通常の献立表の他に食材を細かく記入した献立表により、保護者とともに確認し共有しています。</p> <p>○アレルギーのある子への提供時は色の違うトレーや器、サランラップを使う、トリプルチェックを行うなどの工夫と配慮をして誤食を防いでいます。</p> <p>○アレルギー疾患等について保護者、全職員に対して情報発信を行い、毎年研修会にも参加し知識や情報を得ています。</p> <p>○入園のしおりやお便りにて、食物アレルギーについて理解を図り、園にアレルゲンを持ち込まない配慮をしています。また、こどもたちにも理解できるように話したり、手拭きや机、台拭きなどを別にするなどを留意していました。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	<p>○年間食育計画を作成し、計画に基づいて、こどもが安全に楽しく食事がとれるように取り組んでいます。</p> <p>○こどもが給食室の様子を見ることができ、給食室前の廊下の壁面には、様々な食育に関する教材が貼られ、こどもの興味や関心がもてるような工夫がふんだんにされています。こどもたちにクイズを出して、今年度力を入れていることや食材について、知る良い機会になっています。</p> <p>○食事の際はゆったりとした音楽をかけた穏やかな言葉がけをしたり、楽しく食事ができるように配慮しています。</p> <p>○3歳未満児は発達や手の動きに応じて食具を変えたり必要に応じて介助したりしています。材質にも気配りされています。</p> <p>○食べられるものが増えるような配慮と言葉がけで、少しずつ食べられるようになっていきます。</p> <p>○食育の一環として、野菜の栽培やクッキングに取り組んでいます。芋の煮つぶし、キャベツのちぎり、トウモロコシの皮むきなど。訪問当日は豆腐をビニール袋の上からつぶす体験をしていました。</p> <p>○カウプ指数が気にかかるこどもに関して、管理栄養士の指導を行い家庭との連携を図っています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	着眼点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食 べることのできる食事を提供 している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものである。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>○管理栄養士がこどもの発育状況や嗜好、必要な摂取量を基に献立に反映させています。離乳食については、発育に応じての献立や調理形態を工夫しています。</p> <p>○食材はできる限り地元産を使い、季節感のある食事の提供に努め、園で栽培した野菜も提供しています。</p> <p>○季節の行事に合わせた行事食、郷土食を提供しています。</p> <p>○クラスごとに検食記録簿を作成して、こどもの食べる様子、味、食べやすさ等を記録しています。また、食事の時間には管理栄養士が、こどもが食べる様子を見て一緒に食事を取る機会を設けています。</p> <p>○衛生管理マニュアルに基づき、チェック表に記入し、安全で安心な食事の提供のため、適切に調理や衛生管理がされていました。</p>
	2 子育て 支援	(1) 家庭との 緊密な連 携	① 子どもの生活を充実させるた めに、家庭との連携を行って いる。	b)	<ul style="list-style-type: none"> □ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>○入園時説明会や入園のしおり、アプリによる連絡帳、ドキュメンテーションなどを用いて保育内容を知らせています。さらにできる限り、保護者と直接話して伝えられるように心がけています。ただ、利用者アンケートでは、「アプリだけではこどもがどのように過ごしたかわからない」と多くの保護者からご意見をいただきました。直接話すことのできない保護者への対応を、今後工夫されることが望まれます。</p> <p>○年間でクラス懇談、個人面談、保育参観、親子遠足などで成長の共有を図っています。</p> <p>○家庭の状況や保護者との情報交換の内容について、必要に応じて個別記録に記載しています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	着眼点	コメント
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 ■ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>○登降園時、日々のコミュニケーションに心がけ信頼関係を築くよう取り組んでいます。</p> <p>○年間予定の中に「個別懇談」を組み込んでいますが、随時相談があれば、保護者の就労等に合わせて、個別の時間を設け職員が丁寧に対応しています。相談内容は個別記録に記載し適切に保管されています。</p> <p>○意見箱を玄関に設置し、保護者からの要望や苦情に対して、職員会議で話し合い解決する体制を整えています。</p> <p>○家庭の状況を把握し共感しながら、必要な場合には専門機関と連携するなどの支援をしています。</p>
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 ■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 ■ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>○保護者との日々のコミュニケーションを心がける中で、生活状況を把握し、こどもの心身の状態（着替えや発育測定の際）を観察し、保護者のこどもへの関わり方に気配りしています。虐待が疑われる場合には、虐待防止マニュアルに沿って対応しています。</p> <p>○状況を把握した段階で、保護者のプライバシー等に配慮しながら関係機関との連携を図る仕組みがあります。</p> <p>○職員の人権意識を高めるため、人権擁護チェックリストを年2回実施しています。また、園内でのマニュアルに基づいた研修、法人や関係機関による研修が充実しています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価着	点	コメント
	3 保育 の 質 の 向 上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a) ■ 121 ■ 122 ■ 123 ■ 124 ■ 125 ■ 126	121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。	○月案、週日案などで、保育実践の振り返りを行い、定期的に指導計画の見直しを行っています。 ○指導計画に、自己評価を記入する覧がありますが、こどもの心の育ち、意欲が育つように保育士が取り組む姿勢を、記録の中から伺うことができました。 ○期ごとの反省から課題解決に向けて、職員会、リーダー会議での話し合いがされています。また、専門リーダーのもと園内研修が積極的に行われ、職員の学ぼうとする意識の高さが伺えました。 ○年一回、自己評価をし、園長との面談にて、保育の確認や専門性の向上に取り組む姿が見られました。そのことが保育所全体の保育実践の自己評価につながっています。